

ちえふくろう



〒108-0014 東京都港区芝5-27-5

株式会社コネクト

代表取締役 三国浩晃

TEL 03-3453-8117

FAX 03-3453-8118

【おひとりさま 在宅での旅立ち】

退院してから3週間経ち、いよいよAさんが天国に旅立つ時がきました。ケアマネジャーを中心に往診医の先生、訪問看護師さん、ヘルパーさんが毎日Aさんの自宅に伺うようになりました。そして毎日、NPOにも報告の電話をくれます。

ちょうどNPOの理事会でAさんの報告をしているときに、ケアマネさんから「Aさんの血圧が50~60になってしまい、今日、明日が山ではないか・・・」と連絡があり、私は支援員の矢崎と一緒にAさんの自宅に駆けつけました。Aさんは矢崎の声がけに、か細い声で応えていました。

矢崎が帰ったあと、私はひとりでAさんのベッドの横に前回と同じようにあぐらをかきながら、買って来たAさん好物のおはぎを今日はひとりで食べていました。「私に何ができるのだろうか」「Aさんは何を希望しているのだろうか」と考えながら。

それから3日後、訪問看護師さんから連絡が入り「いよいよだと思えます」と、私がお自宅に伺うと、ちょうどヘルパーさんが到着していて、「今、往診医に連絡をしたので、もうすぐ到着すると思えます」と。

ほどなく往診医の先生が来られ、死亡の確認をして、診断書を書いたままだと書いてくださいました。Aさんは目を開けたまま亡くなっていて、天井を見つめていました。

また、手や足のむくみがひどかったのですが、ここ1週間、食事がだんだん摂れな

くなり、この2日間は水分もだんだん摂れなくなっていました。Aさんの希望で点滴なども行わずに、ご自身の水分を使い切られたのか、亡くなられたときは、肌が透き通るように、きれいでした。とても安らかな表情をされていました。

先生とヘルパーさんが帰り30分程経ち訪問看護師さんが到着しました。私は看護師さんがエンゼルケアをされているのをポーッと見ていました。Aさんは既に亡くなっていて、何をされても痛くも、恥ずかしくもないと思うのですが、看護師さんは「Aさん、ごめんなさいね～」と声をかけながら、ストマーを外したり、オムツの交換をしてくれました。Aさんの尊厳を、しっかりと大切にいただいているのを、そばで見ていると胸が熱くなりました。

私がずっと気がかりだったのが、Aさんの希望が「姉と兄には全部終わってから知らせたい」と何度も言われていたことです。亡くなる1週間前にもお尋ねしましたがAさんの意志は変わりませんでした。

葬儀は支援員の矢崎と担当のケアマネさんと3人で自宅でお別式をして、火葬場での拾骨は矢崎と二人で行い、NPOの事務所へAさんの遺骨を持って帰ってきました。

6月に横浜の海に散骨するのですが、ご兄弟には連絡しない予定です。ご兄弟にAさんの遺言書通りに財産をお渡しするときにはどのように報告をしたらよいのか、今から考えてしまいます。 三国浩晃